

40 . 猿と亀

昔、ふたりの友だち、猿と亀がいました。

ある日、亀が猿の家をひょっこり訪ねて、言いました。「友だち猿よ、もし君が忙しくなければ、一緒に散歩しないか？」

猿はその時、何もしてなかったもので、彼はすぐに友人の提案を受け入れました。

友だち二人は、どうにかこうにか、少し離れた所まで歩き、そこで道に沿って若いバナナの木が生えているのを見つけました。

「僕たちは、このバナナの木で何をしようか？」と亀が尋ねました。

「僕たち二人で分けよう。」と猿が答えました。「僕たちは、平等にそれをふたつに分けなければならぬ。僕は、上野半分を貰おう。君は、下の半分を取ったらどうだ。」

「よしわかった。」と亀は言いました。

そして、ふたりの友だちは、バナナの木をふたつの部分に分けました。亀は下半分を得て、猿は上半分を得ました。そして、それぞれ家路につきました。家に着いてから、猿は、バナナの木自分の分け前である上半分を庭に植えました。亀も帰るとすぐに、バナナの木彼の分け前、下半分を、彼の庭に植えました。

数日後、猿のバナナの木は死にました。猿は大変悲しくなり、彼が甘く熟したバナナを食べることができないことを知りました。彼はずっと夢にまで、時々見ていたのです。

一方、亀のバナナの木は、丈夫に、早く育ちました。数週間で実をつけ、直ぐに熟れて、食べられるようになりました。

「私の友だち、猿のバナナの木には何が起こったんだろう。」とある朝、亀が言いました、「私が友人を訪ねて、原因を知ろう。」

遠くへ、亀は友人に会うために出かけました。

亀が猿の場所に着くと、彼は、友人が大変悲しそうに見えました。亀は言いました。「友だち猿よ、この輝かしい朝に、どうして君はそんなに悲

しく見えるんだろう。君は、世の終わりが着たかのように見えるぞ！」

「僕のバナナの木がしんだんだ。」と猿は答え、庭の死んだ木を指差しました。「君のバナナの木は、どうだい友人？」

「それは今、実をつけているよ。そして、実はもう熟しているよ。」と亀は言いました。

「そうかい。それを僕に見せてくれるかい？」と猿が言いました。無欲なタイプの亀は、イエスと言いました。彼らは熟れたバナナを見に行きました。

亀の場所に近づいて、猿は熟した実をつけたバナナの木を見ました。

「誰がバナナを収穫するんだい？」と猿が聞きました。

「勿論、僕のおじいさんだ。」と亀が言いました。

「でも、君のおじいさんは、足が不自由じゃないか！」と猿は指摘しました。

「それじゃ、僕の兄がそれをやるよ。」と亀が言いました。

「でも、君の兄は、眼が見えないじゃないか！」と猿は答えました。

しばらくして、猿が言いました。「友だちの亀君、僕がバナナの木に登って熟れた実を収穫するのを認めてくれないか。賛成してくれるか？」

「賛成するよ！」と亀は答えました。

すると猿はバナナの木に登りました。二秒間で、彼はてっぺんに着きました。遅れることなく、彼は熟れたバナナを一つ取り、皮をむいて、そして、実を食べました。彼はもう一つの熟れたバナナを取って、同じようにしました。数分の内に、熟れたバナナの半分は、猿に食べられてしまいました。

亀は、彼の友人の行動に、ほとほとうんざりしました。亀は言いました。「友人猿よ、私のものはどうしたんだ。私にもバナナをくれ。」

猿は、ただ笑うだけで、そして亀をめがけて、バナナの皮を投げつけました。

「あいつに、教訓を教えてやる。」と亀は独り言を言いました。

亀はすると出て、近くの茂みに行き、そこでたくさんのおトゲを見つけました。彼はふた抱えのお

ゲを集めて、バナナの木の周りに置きました。

すると亀は見上げて、言いました。「友だち猿よ、一日中、木の上にいるのは、健康に良くないぞ。君に忠告しておくよ。君が、犬の吠えるのを聞いたら、降りる印だぞ。」そして、彼は出て行きました。

そして、隣の犬が吠え始めました。猿はその声を聞きました。この時まで、彼は熟れたバナナで腹いっぱいになり、動きにくくなりました。しかし、友人の忠告を心に留めて、彼は降り始めました。突然、彼は握力を失い、バナナの木の周りがあるトゲの上に重く落ちてしまいました。トゲは、彼の体、足、腕を刺しました。彼は力づくで、何とかその場所から出て、家に帰りました。

次の日、猿は朝早く起きました。

「愚かな亀に、昨日あいつが私にしたことへの仕返しをしてやる。」と彼は言いました。

彼は立ち去って、亀を探しました。

直ぐに、彼は農場の清掃に来ました。疲れを感じ、彼は椰子の実の殻の上に座りました。偶然、彼の尻尾は殻の穴の中に入りました。彼は、殻の中に、彼の友人の亀がいることを知りませんでした。

猿が座ったら直ぐに、亀は猿の尻尾を引っ張りました。すぐに、猿は彼の足で飛び上がりました。彼は椰子の殻を蹴りました。その殻はひっくり返り、亀が現れました。

「お前か！」と猿は叫びました。「僕は、君を朝からずっと探していたんだぞ。知ってたか？」

次に、猿は亀を持ち上げて、言いました。「さあ、お前を懲らしめてやる。」

「僕に何をやるんだ？」と亀が聞きました。

「お前を、炭の上で、焼いてやる！」と猿は言いました。

「もし君がそうするなら、友よ、私は赤くなってしまう。」と亀が言いました。「赤は、僕の好きな色だなあ。」

「それなら、僕は、君を細かく刻んでやる！」と猿が言いました。

「君がもしそうするなら、友よ、大変な数の亀がうようよすることになるぞ。」と亀が言いました。

た。

「それじゃ、僕が君を川へ投げ込んでやる！」と猿は喜んで叫びました。

勿論、これが亀がずっと待っていることです。彼は心の中では、泳げる川の中がどこよりも良かったのです。

しかし、亀は、川の中へ投げ入れられるのが、嫌なことにように偽っていたのです。

「どうか友人の猿よ、それをしないでくれ。」と亀はお願いするように言いました。「私は溺れてしまう。助けてくれ！」

「お前を憐れむのか？」と猿は叫びました。「私にあれほどひどいことをしておいて、助けてくれか？君はまともじゃない。悪いが、友である亀よ、今、川へ投げてやる！」

「ちょっと待て！聞いてくれ、友人の猿！」と亀は叫びました。「炭火の上で焼かれる方がましだ。あるいは、私を小さく刻んでもかまわない。しかし、川に私を投げ込まないでくれ！」

しかし、猿は亀の願いを聞きませんでした。大きく持ち上げて、彼は亀を川に投げ込みました。

亀はもぐって、しばらくの間、水の中に入ってゆきました。やがて、彼は水面に上がってきて、彼の前足は、大きな魚を持っていました。

「友である猿よ、見ろ！大きな魚を捕まえたぞ！」と亀は叫びました。

猿は、しばらくのけぞりました。「私にできるかい？友である亀よ。」彼は最後は、何とかして、こう言いました。

「川に飛び込んで、自分で捕まえたかどうか？」と亀が言いました。「お前のような怠惰な者を見たことがない。」

猿は、怠惰とは言われたくありませんでした。彼は川へ飛び込みました。そして、彼は泳ぎ方を知らなかったため、彼は溺れました。

そして、亀は一日中、ずっと笑っていました。

練習問題

フィリピン 神話と伝説

新しい言葉の学び

A群とB群を結びつけなさい。綴りだけ答なさい。

A

- 1 . readily
- 2 . stout
- 3 . disgusted
- 4 . thicket
- 5 . signal
- 6 . grip
- 7 . mighty
- 8 . revealing
- 9 . pretended
- 10 . pity

B

- a. big
- b. sympathy
- c. bush
- d. at once
- e. strong
- f. show what you are not
- g. showing
- h. sign
- i. not pleased
- j. hold
- k. ended

物語の概略

物語は3部に分かれています。それぞれにタイトルを付けなさい。そして、それぞれの下に、物語の詳細を書きなさい。あなたの概略は次の通りです。

第1部

- 1 .
- 2 .
- 3 .
- 4 .
- 5 .

第2部

- 1 .
- 2 .
- 3 .
- 4 .
- 5 .

第3部

- 1 .
- 2 .
- 3 .
- 4 .

40 . 猿と亀

5 .

明確化と発展の評価

1 . あなたはこの物語に、ユーモアを感じますか？ どうして物語りはユーモラスなのでしょう？

2 . ユーモアのセンスを持つことは良いことですか？ どうしてですか？

3 . あなたがお話を語る人なら、あなたはどのように物語を終らせますか？